

1 矢向 地区

1. 地区概況

鶴見川沿いから川崎市方面へかけて広がる平坦な地形です。

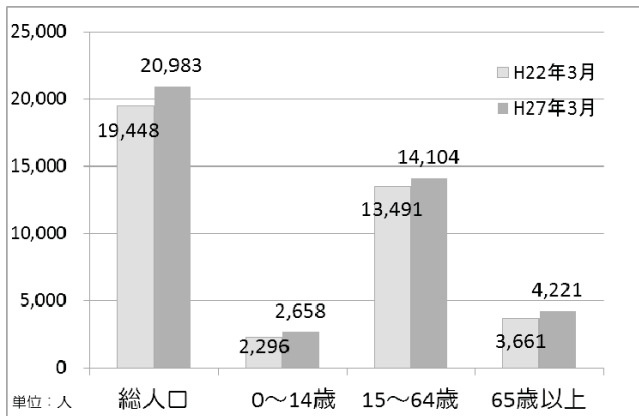
区内を走るバスは、川崎発着が多く、買い物などの日常の生活圏は、ほとんど川崎駅方面です。

鶴見川沿いの工場跡地には、ファミリー向けマンションが建設され、子育て世代家族が引っ越してきています。



2. 矢向地区の人口（年齢区分別）

	H22年3月 (年齢区分別比率)	H27年3月 (年齢区分別比率)	【参考】H27年3月 (鶴見区全体の年齢区分別比率)
総人口	19,448人 (100.0%)	20,983人 (100.0%)	(100.0%)
0～14歳	2,296人 (11.8%)	2,658人 (12.7%)	(13.3%)
15～64歳	13,491人 (69.4%)	14,104人 (67.2%)	(67.0%)
65歳以上	3,661人 (18.8%)	4,221人 (20.1%)	(19.7%)



- この5年間で、0～14歳、15～64歳、65歳以上の人口すべてにおいて、増えています。
- 若い世代が増える一方で、高齢者数も増えており、高齢化も進んでいます。

※地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。 出典「横浜市統計ポータルサイト」

3. 第2期計画

「みんなが優しくなれるまち 矢向」を目指します

「矢向あいねっと推進委員会」を中心に互いに支えあうまちづくりをすすめていきます

住民同士のつながり 情報の共有 交流の場づくり 健康づくり 子育て環境の充実

4. 第2期計画の主な取組内容（22年度～27年度）

あいさつ運動

矢向小・矢向中の入学式で、「おはよう」「おめでとう」と声かけを行い、22年度に募集をした、あいさつの標語が入ったクリアファイルの配布も行いました。

いま取り組んでいる「あいさつ運動」を世代間交流に活用していきたいと考えています。



防災の取り組み



防災マップ作成

災害時に地域で消火活動が迅速に行われるよう、まち歩きをして集めた情報を基にして防災マップを作成し26年3月に町内会加入世帯に配布しました。

「黄色いリボン運動」活用訓練

「黄色いリボン運動」とは、災害時の迅速な救援活動のために、「わが家は大丈夫だから、他の人を助けて」というサインとして道路から見やすい場所に黄色いリボンを掲げる仕組みです。

24年度に全戸配布し25年9月1日の防災訓練で活用し、安否確認訓練を実施しました。



防災施設見学

防災意識を高めるために神奈川県総合防災センターや本所防災館の防災施設見学会を行いました。地震体験・煙体験・暴風体験・消火器操作法訓練などを体験し、災害への備えを進めていきたいとの声が聞かれました。

とちのきフェア

毎年10月末に矢向地域ケアプラザであいねっとを知らせてもらう為のお祭りを開催しています。入場者数は、毎年900名前後と大変多くの方が来場されます。

福引ラリーや各参加団体の活動を体験してもらい、日頃の活動状況を伝えていく場にもなっています。



5. 第3期計画策定に向けて

【計画策定に向けたプロセス】

時期	内容
H26.12月	H26年度第4回矢向あいねっと推進委員会 地域のニーズ把握方法、実施時期、アンケートの項目等について検討。
同月	アンケート項目決定
H27.1～3月	地域ニーズ把握のためアンケート実施 ＜実施方法＞ アンケート配布：班長、役員、回覧版
H27.4～6月	アンケート結果の集計、取りまとめ ◆アンケートから見えてきたキーワード ・様々な世代の人が過ごせる場所 ・新しい人も入りやすい工夫 ・男性が地域活動に参加する
H27.7月	H27年度第2回矢向あいねっと推進委員会 アンケート結果をもとに現状・課題の共有と今後の方向性についてグループワークを実施しました。 ◆グループワークでの意見 『あいさつ運動』や『黄色いリボン』など既存の活動に加え、『綿花の一鉢運動』や『世代間交流』など住民同士の見守り見守られる関係づくりへのアイデアや意見が出ました。また、新しい住民や男性の参加のきっかけとなる仕掛けやイベントの必要性が語られました。それらを通し、さまざまな人々が交流することで繋がりが出来、次世代の担い手育成へも繋がることが期待されるという意見が出ました。
H27.9月	H27年度第3回矢向あいねっと推進委員会 グループワークでの意見をもとに、第3期矢向地区計画の目標とキャッチフレーズを作成しました。すべての目標において、人々が繋がることの重要性が確認され、「誰もが安心して暮らせる矢向のまち」というキャッチフレーズに決まりました。



6. 第3期計画策定（28年度～32年度）



誰もが安心して暮らせる矢向のまち

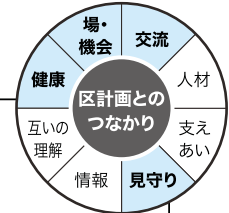
目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

■現状の良いところ・課題

- ・安心して育児ができ、子育て世代が交流できる場はあるが、より求められている。
- ・身体を動かして遊ぶことができる場所が必要。

■5年間の具体的な取組

- ◎子どもと高齢者等様々な団体同士の交流会の開催。
- ◎学齢期の子どもへの支援体制を整える。
- ◎あいさつ運動の拡大。



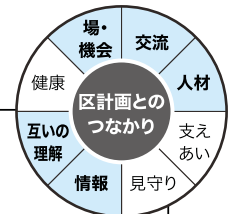
目標2 住民の参加（担い手づくり）

■現状の良いところ・課題

- ・イベント等をきっかけに新しい住民との交流がうまれている。
- ・就労世代や男性も地域活動に参加できるような工夫が必要。
- ・世代間をつなぎ、中心となるリーダー的な人がさらに求められている。

■5年間の具体的な取組

- ◎趣味やスポーツを通じた声かけや交流の企画。（運動会、グランドゴルフ等）
- ◎イベント等に来てもらえる仕掛けづくり。（地域の関係団体との連携、情報発信の工夫等）



目標3 住民同士の見守り見守られる関係づくり

■現状の良いところ・課題

- ・集まる場所に来ることができない人を誘い出す工夫が必要。
- ・若い世代や世代間のつながりをさらに深めたい。

■5年間の具体的な取組

- ◎黄色いリボン運動の継続。
- ◎（綿花の）一鉢運動をより多くの人に広げる。
- ◎身近な場所に人々が集まれる場所を作る。（カラオケ、サロン等）
- ◎既存の集まりを活用して世代間交流。

